

## 下顎骨に広範囲にみられた多胞性透過像

内田啓一, 深澤常克, 人見昌明, 児玉健三  
長内 剛, 和田卓郎

松本歯科大学 歯科放射線学講座 (主任 和田卓郎 教授)

X線画像において多胞性透過像を示す疾患としては、代表的なものにはエナメル上皮腫がある。また、比較的稀ではあるが歯原性粘液腫や歯原性角化嚢胞などがあり、濾胞性歯嚢胞、石灰化歯原性嚢胞や歯原性線維腫などもある。このような多胞性透過像を示す疾患は発育速度が比較的緩やかで、被包が明確であり膨隆を示す病変のX線画像の代表的なものと考えられる<sup>1)</sup>。

今回、我々は下顎骨に広範囲にみられた多胞性透過像の1例を経験したのでそのX線写真を供覧する。

写真1にパノラマX線写真を示す。右側下顎骨第三大白歯遠心側から左側第二大白歯近心側におよぶ範囲に多胞性透過像が認められる。また、中隔を伴い、強い透過像が右側第一、二小白歯部付近にみられ、両小白歯部の歯間乳頭部に病巣が進展し歯根の離開が認められる。病巣の細部および頬舌的な拡がりを観察するために口内法およびCT撮影を行った(写真2, 3)。その結果、多胞性透過像はその内部に淡い不透過像を伴う部分がみられる。特に右側第一、二小白歯部付近および前歯部に強くみられる。前歯部には歯根の吸収が

みられる。また、第一、二小白歯部歯槽部付近において大小不同の小胞が存在し、いわゆる石鹼泡状様 (soap-bubble appearance) を示し、また、この部分ではとくに頬側への骨の膨隆が著明に認められる。さらに、右側第三大白歯部から左側犬歯部にかけての下顎骨皮質骨は全般的に菲薄化している。

以上、X線学的診断においては、エナメル上皮腫、歯原性粘液腫、歯原性角化嚢胞などがあげられるが、本症例ではエナメル上皮腫が強く示唆される。好発部位もさることながら、本症例のように下顎骨骨体の約2/3も占める多胞性病変は比較的特異なものといえる。このような大きな病巣をX線学的に的確に把握し知るためには、特に顎骨内の状態や骨膨隆あるいは皮質骨の菲薄化などの画像情報を得ることが必要であり、多方向からの撮影を必ず行うこと、さらにはCTなどの特殊な検査が望ましいと思われる。

### 文 献

- 1) 東与光, 生田裕之 (1993) アトラス口腔画像診断の臨床, 第2版, 107-140. 医歯薬出版, 東京.



写真1：右側下顎骨第三大臼歯遠心側から左側第二大臼歯近心側におよぶ範囲に多胞性透過像が認められる。

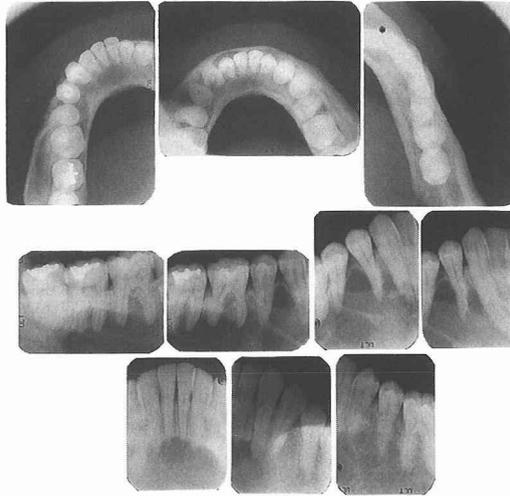


写真2：右側第一，二小臼歯部付近および前歯部に内部に淡い不透過像を伴う部分がみられる。前歯部には歯根の吸収がみられる。第一，二小臼歯部歯槽部付近においていわゆる石鹸泡状様 (soap-bubble appearance) を示している。



写真3：第一，二小臼歯部歯槽部付近において頰側への骨の膨隆が著明に認められる。右側第三大臼歯部から左側犬歯部にかけての下顎骨の頰側，舌骨皮質骨は全般的に菲薄化している。